

“至 誠”（新たなる歴史に向けて）

校長便り 2018 第4号

1. 夏休みが終わりました

40 日間にわたる夏休みが終わりました。皆さんにとってこの 40 日は充実したものになったでしょうか。1 学期終業式に、「なにか人のためになること（例えばボランティア活動）を一つでもいいからやってみてください」と話しましたが、実行してくれた人はいるかな。私はここ 10 年くらい、夏休みは自分の勉強・研修のためにセミナー、シンポジウムなどに参加して知識・情報をインプットしたり、頼まれて講演会をやったりと結構充実した期間を過ごしてきました。しかし今年は前半は高校野球とインターハイでほとんどの日程がつぶれ、後半は商業関係の公式な行事が目白押しで全くそのような機会がなかったのでもっとストレスがたまるような状況でした。それでも 2 年生の希望者と一緒に皇学館大学に SBP (Social Business Project) という全国の高校生たちが地域や企業と連携してさまざまな活動を行うプレゼン交流会に参加したのは楽しかったです。来年の課題研究をしっかりとした探究活動にしてぜひ本校もあの場に参加してほしいものだと感じました。

また、県商業研究会における本校も含めた 4 校の生徒発表会も楽しく見せてもらいました。本校は 3 年生が四日市市とコラボして研究している「シティマネジメント」の発表でしたが、私は探究活動としては非常にいい、と思ったのですがやはり商業高校という性格上、なにか商品開発を絡ませないと高い評価にはならないのかな？結果は 4 チーム中 3 位でしたが非常に興味深く意義のある探究テーマだと思うので、ぜひとも下級生がその意志を継いでさらに発展させていってほしいと感じました。この生徒発表会の東海 4 県の代表が集まっての全国大会東海予選にも参加しましたが、こちらのほうはすごくレベルが高くて、今後の社会で必要とされる探究活動がすでに行われていることに驚きを感じました。2022 年から実施される新学習指導要領を先取りした状況は、たぶん部活動としてやっている発表でしょうから特殊な例だとは思いますが、その先見性は見習うべきものがあると思います。

2. 「キャリア教育」とは？（1 学期終業式の振り返り）

ここまでもいろいろな表現で「キャリア教育」について書いてきていますが、基本的には「社会で生きる、生き抜く力をつける教育」がその定義になると思います。この場合の「生きる」はただ生命体として生きているだけでなく、「幸せに生きる」ことが大切で、それができて初めて価値があると思います。ただ、社会で生きる以上は「自分だけ」が幸せだったら良いのではなく、様々な立場・考え方の人々がたくさんいる中で「みんなが幸せになる」ことを考えなければいけません。そのためには自分以外の人たちがどのような考え方をしているのか、どのような価値観

を持っているのかを知ることが前提になってきます。その第一歩が終業式の時の話「夏休みの間に小さいことでもいいので人の役に立つことをなにか一つでもやってみてください」になるわけです。何をやれば人の役に立つのか、人に感謝されるのか、どのように人とコミュニケーションをとっていくのか、ほかの人はどのようなことを考えているのか。これらのことを知る事が「共に（幸せに）生きる」ための基盤になるからです。もっとも、「夏休みの間、おまえはなにをやったんだ？」と問われると、地域の草刈りをやったくらいであり偉そうなことは言えません。ただ、この年になって青臭いことを書くようですが、「みんなに幸せになってほしい」ということはすごく強く思っていて、仕事（教育）を通じ将来社会でみんなが幸せに生き、地域が発展していくために貢献する努力と活動は常にやっているつもりです。先日も3年生の面接練習の際に話したのですが、皆さんも「就職内定を取ったら高校での勉強は終わり」ではなく、そのあとも仕事や社会生活に必要な能力を身に着ける勉強は必ず続けてほしい（社会に出ていくまでに半年近くあるのですから）と願います。

新たな学習指導要領では商業科の改訂のポイントとして「ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成する」ことを挙げています。普通教科（英語とか国語とかの商業の専門科目以外の教科のこと）において育成しようとしている、「社会人として市民として生きる力」を加えれば「社会でみんなが幸せに生きる（能）力をつける」ことが新学習指導要領の軸であり、それはイコール「キャリア教育」であるということがわかってもらえるでしょうか。

それが理解できれば、次にこれらを具体的に皆さんの行動や授業に落とし込んでいくことが必要になってくるわけです。そのために1学期には一つの例として「気づき、気配り」の力をつける、ことを提案しました。「気づき、気配りの力をつける」→「そのために観察する習慣を身に着ける」→「そのために細かいところ、細部に注意を払う」というようにだんだんと具体的な行動に落とし込む、日常の意識を変えていく。そうすれば「掃除」ひとつとっても「キャリア教育」になるということです。

授業だってそうです。ただ先生の話すことを漠然と聞き、黒板の板書をノートに写し、テストではそれを覚えて、といった我々や保護者の方々の子供時代の勉強の仕方では「キャリア教育」としての授業にはなりません（少なくとも皆さんが社会の中心になる時代には・・・）。一つの事実や知識を知ったらそれを暗記するだけでなく、「それはどんな意味があるのか」「なぜそうなったのか」「ではどうすればよいのか」など、自ら「考えてみる」ことが必要です。一人で考えてもなかなか答えが出ないでしょうから、友達と話し合ってみる（ペア）、グループで話し合ってみる、本やインターネットで調べてみる、等を実践してやる必要がありますね。そのうえで「こうじゃないかな〜」という自分なりの仮説をたて、さらにそれを検証してみる。さらにいうと考えや実践を自分なりにまとめて文章や言葉で発表する。このような学習の仕方をアクティブラーニング（文部科学省では「主体的、対話的で深い学び」とまとめています）と呼んでいるのです。私はアクティブラーニングを「新しい時代の授業におけるキャリア教育」だと考えています。

ちなみにこのような学習はすでに社会に出たら必須のものになっていますし（「生涯学習」とか「学び続ける力」とか言います）、小中学校でも当たり前前の学習法になりつつあります。四日市市はかなり進んだ取り組みを始めていてすでに成果が出始めていますよ。高校で新学習指導要領が実施されるのは2022年からです、その本質の部分はずでに各方面で取り組みが進められているので、将来都会に出ていきたい人はもちろんのことこの地方にとどまって人生を送ろうと考えている人もぜひ今のうちから「自分のキャリア」を意識してやれることから実践してください。

難しいことを書いているようですが、意識を変えれば学校生活や日常生活でもあらゆるところに材料は転がっています。文化祭や体育祭などの学校行事でも自分たちが主体的に考え実践することで能力を高めることができます。私は6月の体育祭を見る限りでは皆さんの主体性が芽生え始めているのではないかと感じているのですが……。部活動でも皆さんの主体性や探究的な要素を加えることでずいぶん変わってくると思います。今や強豪校と言われるようなチームでも選手の主体性を中心とした練習に切り替えているところは多いし（自主練というのは本来個人の課題発見・解決型の探究的な活動ですよ）、こうなってくると選手の「考える力」と「主体性」が部活動の軸になってきますよね。先に書いた東海地区の生徒発表会でも優勝の大垣商業の提案は日ごろ連携している地域に、高齢化によって「買い物難民」が増えている現状をいかに解決するかという問題意識を、情報クラブらしく、高齢者でも使えるインターネット活用法と弁当宅配会社とコラボした知恵を出すことで解決策を導入したもの。準優勝の南陽高校は環境問題を考える中で現在、大変な問題になっているプラスチックごみの廃棄量を削減するため、「土に還る容器」に地元で作った商品（わらびもち）をパックするという、商品開発が地域活性と環境問題の同時解決に向かうアイデアを提案したもので、どちらも日常の身近な問題に対する「気づき」が様々な問題発見・解決につながった探究活動になっています。

大切なのは「気づき」の力を上げるための意識・行動心がけることと経験を積むための高い「志」を持った「大人」と交流・コラボすることだと思います。今後、そのようなチャンスをぜひたくさん提供したいと考えています。ぜひとも積極的に参加してください。皆さんのポテンシャルの高さを考えると四日市商業の「キャリア教育」への伸びしろや地域社会への貢献できる要素は大変高いと考えているのですがどうでしょう。 (9月10日)